講義名	観光社会学					授業形態	
担当教員	山川　拓也	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	２年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

現代社会はツーリズム・モビリティ（観光・旅による人々の移動）を抜きに考えられなくなっており、常に／既に観光と共にある。また近年になり、ツーリズム・モビリティはデジタル技術に支えられたコミュニケーションと緊密に結びつきながら、社会や文化を急速かつ確実に変容させつつある。

こうした認識のもと、本科目では「観光を社会学的に理解する」ための機会を提供する。具体的には、観光が旅行者／観光者と社会との相互コミュニケーションのもとに成立しているという主旨のもと、必要な諸概念を整理し、観光に関係する身の回りの日常的な事象や現象に照らして理解を深め、思考を促していく。

そこから、現代社会に多大な影響をもたらすコミュニケーションの現象として、観光を客観的・俯瞰的に把握するための視点、さらには観光や社会に関する構造的な本質をも考察できるようになるための視座の涵養・獲得を目指していく。

到達目標

①知識・理解：社会学や社会コミュニケーションの観点で観光に対峙するための概念を理解できるようになる。

②思考・判断：観光に係る様々な社会現象を理解し、そのことから観光の本質について考えられるようになる。

③関心・意欲：日常生活を観光という観点から捉えることにより、観光の今後や未来を考えられるようになる。

④技能・技術：客観的・俯瞰的な視点をもとに、観光が常在する現代社会を構造として把握できるようになる。

提出課題

・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」（responseまたはCampus-Xsで実施予定）

・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「理解度確認（小テスト）」（Campus-Xsで実施予定）

・小論文／論述レポート（詳細については授業中に説明する）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「理解度確認（小テスト）」「ミニッツ・ペーパー」の記載内容で解説や補足等を加える必要があると認めたものは、適宜それを共有する。

評価の基準

下記による総合評価とする。

①授業後の「理解度確認（小テスト）」への取り組み：１５％
②小論文／論述レポート：３５％
③期末試験（対面方式にて実施）：５０％

＊毎回の出席確認は厳格に実施する。
＊①・②の提出がない場合、得点は０（ゼロ）点となり、成績評価に影響を及ぼす。
＊累積の欠席回数が５回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/Ｅ）
＊遅刻・早退（時間の長短を問わない）は、１回につき0.5回の欠席として算入する。
＊ミニッツ・ペーパーの提出がない場合、１回につき0.5回の欠席として算入する。
＊スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
＊ミニッツ・ペーパーの記述内容が優れる場合、一定基準のもとで加点する。

履修にあたっての注意・助言他

学部専門基礎科目「観光文化論」（前期配当）を履修していると、本科目への理解を深めることができる。

教科書

.よくわかる観光コミュニケーション論(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ).	須藤廣（編集），遠藤英樹（編集），高岡文章（編集），松本健太郎（編集）	ミネルヴァ書房	3080	9784623091874

参考図書

.よくわかる観光社会学.	安村克己（編集），堀野正人（編集），遠藤英樹（編集），寺岡伸悟(編集)	ミネルヴァ書房	2860	9784623060375

その他

プリント資料：毎回の授業では講義レジュメを配布し、教科書とパワーポイントを使用して授業を実施する。

授業計画

⑴ ガイダンス（科目ならびに授業の概要説明）、観光社会学とはどのような学問か
⑵ 問い直される『観光』、問い直される『社会とのコミュニケーション』①
⑶ 問い直される『観光』、問い直される『社会とのコミュニケーション』②
⑷ 観光を社会とのコミュニケーション（観光コミュニケーション）と捉え、社会学的に考えるためのキーワード
⑸ 観光コミュニケーションがもたらす論点①
⑹ 観光コミュニケーションがもたらす論点②
⑺ 現代観光における「ホスト／ゲスト論」の新展開
⑻ 観光コミュニケーションの拡大と多様化
⑼ 観光コミュニケーションにおける再帰性①
⑽ 観光コミュニケーションにおける再帰性②
⑾ 観光コミュニケーション「が」つくり出すもの
⑿ 新たな「テクノロジー」が観光コミュニケーションに問いかけるもの
⒀ 新たな「文化」が観光コミュニケーションに問いかけるもの
⒁ 新型コロナウィルス感染症以降の観光コミュニケーション
⒂ 科目のまとめ、総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（予習：120分／回）
・教科書の該当部分を読んだうえで分からない用語・語句などについて調べ、授業に向けた予習に努める。

（復習：120分／回）
・授業の内容（特に概念に関する理論的説明）を整理し、周辺事例と照らし合わせるなどして理解に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、観光が現代社会の多様な事象や現象および社会の変容に関わっていることについての学びを含んでいる。観光は時々の社会状況と密接に関連しており、一時的に停滞したとしても、新たな観光形態による新たなコミュニケーションが生み出される。本科目では、観光を個人が余暇を過ごすための一つとしてだけでなく、経済、政治、文化といった様々な側面との深い関係をもとに生産される社会コミュニケーションと認識することにより、自身が社会の一員であることについても深く理解することができる。したがって、本科目の到達目標①②③④を到達することにより、本学ならびに学部・学科のDPに貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・毎回の授業後に実施する学修課題への取り組みにおいて、LMS（Campus-Xs）を活用する。

・必要に応じて授業中でもresponseを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
旅行業および旅行サービス手配業での実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画造成、営業、添乗、海外駐在、市場戦略策定）により得た知識・知見を活用し、分かりやすい事例紹介なども取り入れながら、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考

・新型コロナウィルスの感染状況ならびに科目の進捗状況等によって授業方法や内容を変更する場合があり、その際には事前に告知する。